

NOTE BOOK
RECORDING FOR VALUABLE DAYS OF ALL

がの研究

敬学会賞第十九回入選作品



加藤文雄

592

加藤文雄

CONTAINING BEST RULED FOOLSCAP
MARUKYO'S <YÔ> NOTE



TOKYO

目

次

動 機

26ページ

研究の内容

27ページから
28ページまで

研究のために使ったもの

28ページ

お世話になった人

28ページ

研究してわかったこと

29ページ

動

機

初めぼくはにんじん畑にいく見ると
にんじんの葉に、あげはちょうのよう
な虫がいたのでなにかと思ってか
いておとうさんにきいてみたらがのよう虫だ
ということがわかりました。
それではがをしらべることになりました。

本

9月5日

にんじん畑にいて
みるとあげはのよう虫
のようものがにんじ
んのはについていた。
ぼくのうすにもってきて
おとうさんにきいて
みたらがのよう虫だ
ということがわかりま
した。

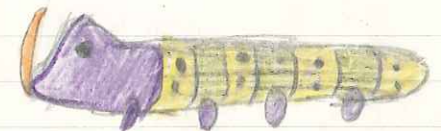
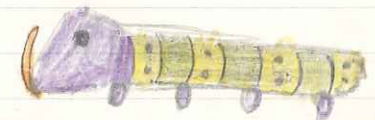
論



9月7日

初めのうちは1cm
ぐふいだったのが
2日たったで2cm
ぐふいのびていまし
た。

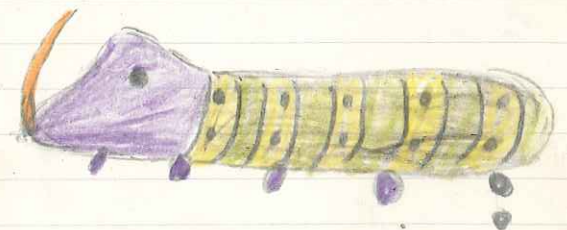
ぼくはもっと大きくなれ
と思いがふみてい
ました。



9月9日

つかまえてから、4日
たってせとうんちを
たれました。

そのがのよう虫は
小さいのに大きい
のをたれるので
びっくりしました。



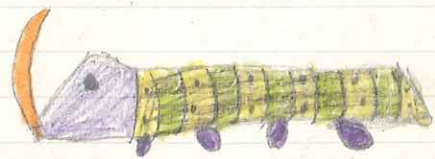
9月11日

にんじんの葉をかえて
やったふがのよう虫は
あそびまわっていた。
ほくたさが手のひら
にのせてみると
きもちがわるかった。



9月13日

二がのよう虫をみて
みたふだいぶ大きく
なっていたのでびっくり
した。
まえにくさずると
いるもすこし
かわっていた。



9月15日

はっはをとりかえて
やったふ元気に
たべていました。
も、も、と大きく
なるといい。



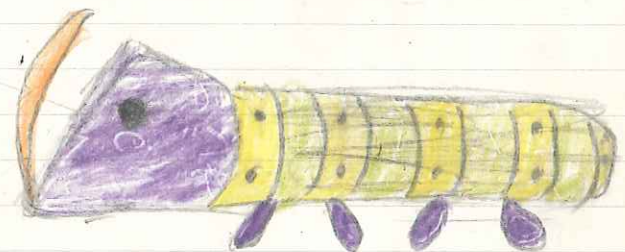
9月17日

このまえよりは大きく
なってる、1cmぐらいいに
なっていました。
またおやゆびより
大きくはなってい
ませんでした。



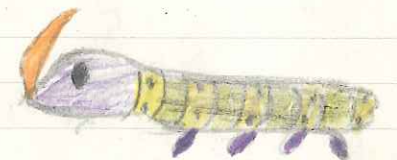
9月19日

いろもだんだん
かやってきたので
「なぎ」になるのか
なと思った。
だがまた元気が
とてもよかった。



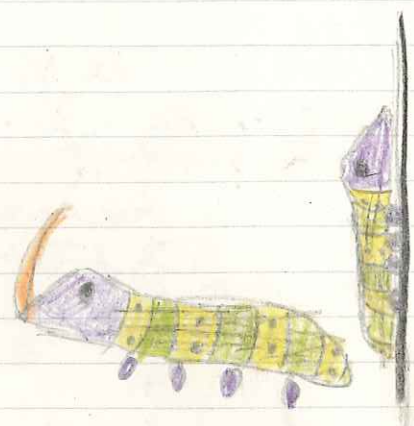
9月21日

にんじん畑か
小さいのをつかまえて
きてすこし大きくなって
いるのがいるところ
にいれました。



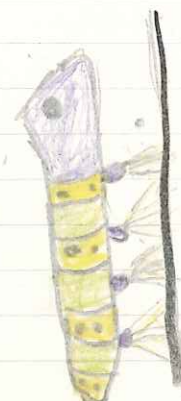
9月23日

小さいのもどんどん
大きくなっていた。
大きいほうはまわりに
くっついたように
なっていた。
どっしたのかなあと
思った。



9月29日

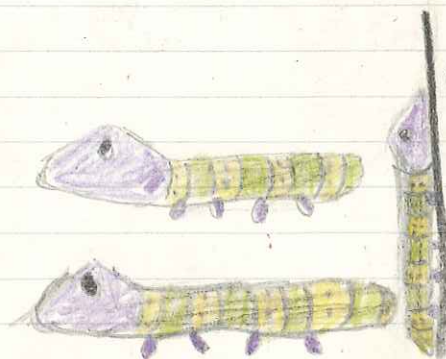
大きいほうはあしの
ところかぶし3111
この様なものが
でてきた
小さいほうは2mm
ぐぐい大きくなっ
ていた。



9

9月25日

大きいほうはそのままに
なっていた。
小さいほうは3mmぐ
ぐい大きくなっていた。
27日にはど
いになるだろうか
と思った。



10月1日

10月1日

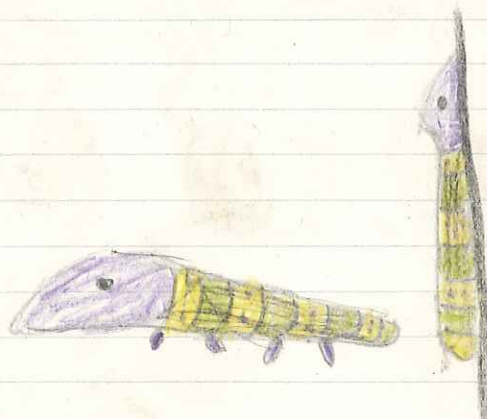
大きいほうはかん
ぜんにさなぎに
なっていて小さい
ほうはしんでいた



9月27日

9月27日

大きいほうは死んだ
ようになっ
てくっつ
いていた。
小さいほうはこのまえ
とたまたま同じ
長さだった。



10月3日

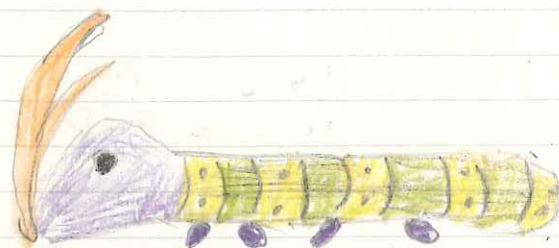
10月3日

にんにく畑へまた
いって見たら大きい
のがいたのてつかま
えてきました。
さなぎはまたその
ままです。



10月5日

大きいのは元気にそ
だっています。
かぶたをたたくと
くちよりうえのところ
かぶたのいたいのところ
つのをだします。



10月11日

さなぎになってかぶ
11日ですがまだかぶに
なっていないので
ふしぎだなと思い
ました。



10月7日

は、はのいれかえを
してや、たふたべて
いました。
はやく大きくなって
さなぎになると
いいな と思い
ます。



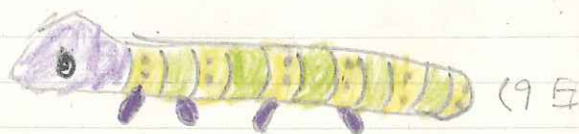
10月13日

さなぎは何日で
かぶになるかふて
みたい と思いま
す。
大きいほうもるmm
ぐうい大きくなって
いました。



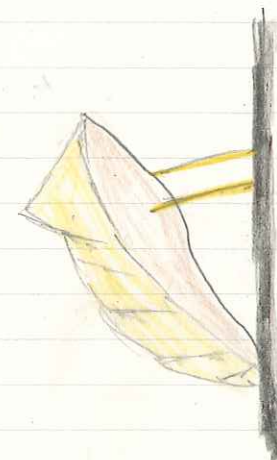
10月9日

さなぎのほう1は
いつかになるの
かふ と思って
います。
よう虫のほうは少し
大きくなっていろ
うでした。



10月15日

は、はのいれかえを
してやふなかつたので
みんないいました。
さなぎはまだかぶにな
ていなかた。



10月 17日

さなぎの下によう虫の
ぬいたいがふがあつた。
よくみてみるとすこし
いるかわわっていた。



10月 23日

小さいのは5mmぐら
いびついていた。
だけどさなぎのほうは
またが1にはなつては
いなかった。



初め



2日おきめ

10月 19日

ぜんぶしんでいたと
かいてあったが少し
のが1匹まききっていた
のできがつかまかたなち
と思ひました。



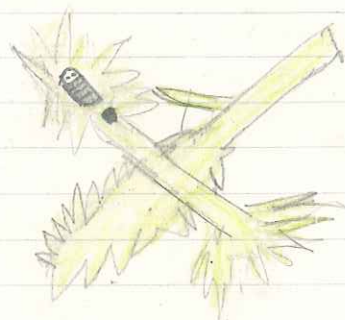
10月 25日

小さいのはこの前より
3mmぐら大きくなっ
ていたがさなぎはそ
のままになっていた



10月 21日

小さいのは元気をだして
大きなうごきだれて
いました。
この前とくらべてにんじ
のは、1は1はたいてい
いた。



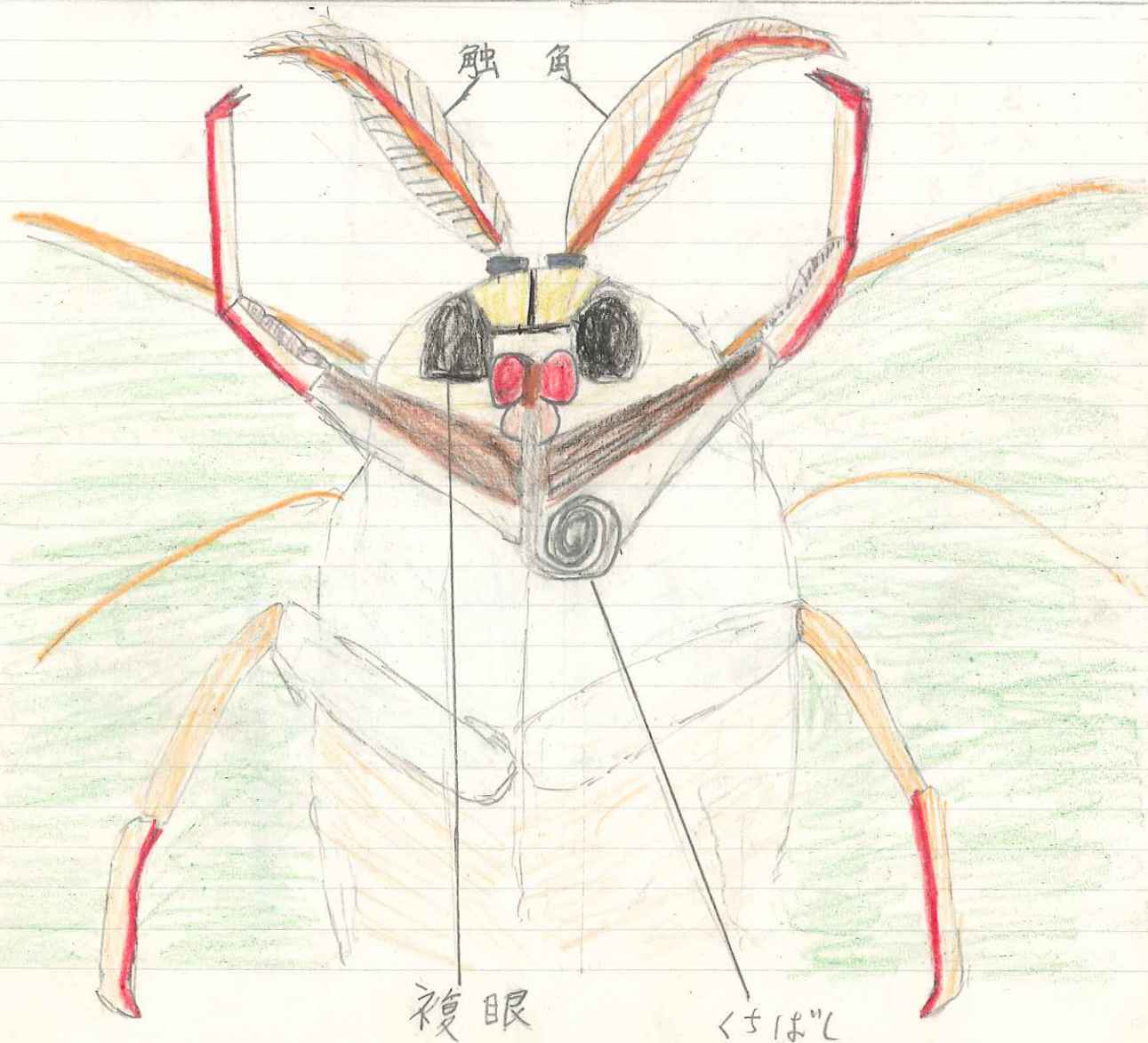
10月 27日

さなぎはそのまま
たつたが幼虫は少し
大きくなっていた。



10月29日

まださなぎからかにな
っていないのでいつ
ごろ親虫になるのか
なあと思いました。



くちばし

が の な か ま

ヤママユのなかま

もっとも大きくなるのが、がのなかまで、
まゆをつくってさなぎになります。まゆの系は、
じょうぶなので、ヤママユのように織物の
原料などにつかわれたこともあります。

名	まゆの名	幼虫の たべる葉	がのでる とき
ウスタビが	ヤマガマス	サクラ ケヤキ	11月ころ
ヤママユ	ヤママユ	クヌギ	8月
クスサン	スカシダワラ	クリ イチョウ	9月
ヒメヤママユ		サクラ ナシ	9月
オオミズアオ		ハンノキ	6月 8月
シンジュサン		シンジュ ニガキ	5月

クスサンは、都市にも多く、街路樹の
イチョウや、トチノキの葉をたべてあがります。
これらのがは、めずはおすよりずと大型で、
ひげは糸のようですが、おすはとりのはねのよう
になっています。クスサン、ウスタビがなどは、よく
でんとうの光にあつまってきます。ウスタビがの
まゆは、冬でもきれいなみどり色ですが、
ヤママユは冬になるとよごれたきいろに
かわります。

が の 生 活

1、 昼、飛んでいるがのなかま
オオスカシバ、クチナシの害虫で、
がははねにりんぶんがなく、ハチのように
見えます。昼、花にきて、飛びながさ、みつさ
すいます。

2、 ホタルが、ヒサカキの害虫
シロシタホタルが、サワフタギの害虫。
ムゲをたてて、ひらひらと飛びます。

3、 カイコが はねにまだうが
あります。
キハダカイコ 腹がきいろで、山地
に多くいます。
コウマダラエダシャク マサキの害虫
ウメエダシャク ウメの害虫

夜、花にくるスズメがのなかま
オオマツヨイグサ、オシロイバナ、ユウガオなど、
夜咲く花に、スズメがのなかまがやってきて、
花にとまらさず、飛びながさ、長い口ばくをだして、
みつをすいます。スズメがの幼虫はイモムシと
いわれ、種類によつて、それぞれきまつた植物
の葉をたべあひします。作物につくときは、
害虫としてきざわれますが、雑草につくとき
は、それほどいやがふれません。

名	幼虫の食草	発 生
キイロスズメ	ヤマノイモ、トコ ロ、サトイモ	5~10月(2回)
エビガラスズメ	サツマイモ、アサ ガオ	5~11月(2回)
ウチスズメ	ヤナギ、サクラ	5~9月(2回)
ベニスズメ	ホウセンカ、ツリフ ネソウ	4~9月
カンモンズズメ	ケヤキ、マユミ	5~8月

いしくしたくたものにくるが

アケビコノハ、ムクゲコノハなどのヤがのなか
まは、もも、ナシ、ミカンなどの、いしくしたくたも
のにきて、口ばしをさしこんで、おまいしるをすい、く
たものにひどい害をあたえます。この性質を
うまく利用すると、たべられなくなつたくたも
ので、これらのがをよびおせることができます。

木のしるをすうが

ヤがのなかまは、雑木林などにいます。
木のしるをすいにきて、そのまま、じっとしてい
るのです。ヤがのなかまには、前ははねは
きたなく、木のかわとおなじような、もよ
うや色どりですが、後ははねには、きれい
なもようのあるものがたくさんあります。

が の な か ま

チョウとがは、同じなから、はっきりとしたチョウのながま、がのながまという区別をつけることがむずかしいこともある。くべてみて、ごくあたりまえの分け方をすると下のようになる。

が	チョウ
ふけがはねまた 糸のよう	ふけがこんぼう 形
かぶたがふ、とい	からたがほそい
はねがせまい	はねが広い
多くはねを屋根 形にしてとまる	多くはねをたて とまる
夜活動のものが 多い (※)	昼活動する
さなぎははだか まゆをつくる	たていていりさなぎは はだか

スズメ かのながま

に幼虫は、イモムシと似られるながまで、かぶたにははっきりした毛がなく、ふと、ていり、しりに近く長い肉角がある。

親のがはかぶたがふとく、はねは厚くて、はやく飛び、ふけはほろすい形で太く、先は細くてまがっている。口のくたはよく発達して、モモスズメやウチスズメでは1cm以下だが、キロスズメなどになると5cm以上もある。

夜活動して、飛びながらユウガオ、オオマツヨコバイグサなどのみつをすうものと、昼間活動して、花をおとされるものとかがある。幼虫のたべ方がはげしいので、作物

や庭木につくと、たいへんな害をする。

ウチスズメ

5月と7月にス回出て、幼虫は、ホフア、ヤナギなどにつく。

クロスズメ

5～7月に出る。幼虫は、まつり葉をたべる。

キロスズメ

6～9月にでる。幼虫は、ヤマノイモ、ナガイモ、トコロなどの葉をたべる。

セスジスズメ

6～8月にでる。幼虫は、サトイモ、ヤブガラシなどの葉をたべる。

コスズメ

5～8月にでる。幼虫は、ブドウ、ツタ、ヤブガラシなどの葉をたべる。

エビガラスズメ

5～7月にでる。幼虫は、サツマイモ、アサガオなどの葉をたべる。

ベニスズメ

6～10月にでる。幼虫は、ホウセンカ、マツヨイグサ、オクラマツバなどの葉をたべる。

モモスズメ

5～8月にでる。幼虫は、サクラ、モモなどの葉をたべる。

ヒメホウジャク

夏にでる。幼虫は、ヘクソカスラの葉をたべる。昼間飛ぶ。

ヒメクロホウジャフ

6~9月ころでる。幼虫は、ユズリハの葉をたべる。昼間とぶ。

オオスカシバ

6月ころからでる。幼虫は、クチキシの葉をたべる。親虫は、はじめはねにこなをつけているが、後にふるいかとしてしまう。昼間飛ぶ。

オビホウジャフ

8~10月ころでる。昼間花にくる。

シャチホコがのながまその他

シャチホコがのながまは、幼虫が変わった形をしているので、このような名がついた。

ツマキシヤチホコ

成虫のがは、6~8月ころでる。クヌギ、アベマキなどの葉をたべる。

モンクロシャチホコ

オス、メス同じような色と形をしている。8~9月でる。幼虫は、サクラ、ナシ、ビワなどの葉をたべる。暗赤色の種で、秋のころ、サフラを枯れ木のようにするのは、この幼虫である。

モクメが

がは、年1回8月にでる。幼虫は、ヤナギ、ポプラなどの葉をたべる。

シャチホコが

オスのひげは羽状で、4~5月にでる。幼虫は、胸の足が長く、尾のはじは太い。クヌギ、ナシなどの葉をたべる。胸と尾をあ

げ、しやまほこ立ちをする。

セダカシャチホコ

がは、6~7月にでる。幼虫は、クヌギ、カシなどをたべる。

カシワマイマイ

オス、メスで別種のようにでる。幼虫は、クヌギ、ナラなどの葉をたべる。

イラガ

6~7月にでる。幼虫は、カキ、ナシなどにつき、とげがあって、これにさせられると、たいへんいたい。まゆは、かたくまるく、表面に黒いしま模様があり、スズメ、ショウベンタゴなどの名がある。

カレハがのながまその他

マツカレハ

幼虫(マツケムシ)は、マツの葉をくう害虫で冬は幼虫のまま、マツのみぎの皮下にかくれる。がは、7、8月~9月ころである。幼虫のむねに毒の毛がある。

タケカレハ

幼虫は、タケ、ササなどの葉をたべる。がは、6月と9月ころでる。

カレハが

幼虫は、モモ、ウメ、ナシなどの葉をたべる。

オビカレハ

がは、5、6月にでる。たまごで冬をこし、幼虫(ウメケムシ、テンマフケムシ)は、冬まで

テントの中のすにかくれ、夜でアサクラ、ウメ、モモ、ナシ、バラ、ヤナギなどの葉をたべ、以後は、巣からはなれて、ひとりひとりでこれらの葉をたべあふす。

ヒメカレハ

オスは、すこし小形で、4、5月ころでる。幼虫はヤナギの葉をたべる。

クヌギカレハ

オスは、小形でおうかしく、ひげが羽がた。10月にでる。幼虫は、かしく大形で、クヌギ、コナラ、リンゴなどの葉をくう。

トクガ

親虫、幼虫とともにその毛が人のからだにふれると、はげしいいたみを感じる。幼虫は、トクケムシといわれ、クヌギ、ウメ、サクラなどの各種の植物をくいあふす。

カイコその他

カイコは、かわれる時季によつて、春蚕、夏蚕、秋(晩秋)蚕にわけられる。幼虫は、クワ、ハリブツをたべる。親虫は、とぶことができない。サナギになる前、つくたまゆかぶ生糸をとる。この生糸かぶ、きぬがつくられるのである。

フワゴ

カイコガの野生のもので、カイコは、これを大昔かいなしたものと考えられている。幼虫は、クワの葉をたべて成長し、6~7月ころでる。

スカシカギバ

はねの中央に、すきとおった部分がある。6~

7月にでる。幼虫は、クヌギなどの葉をたべている。

スジキオビ

6月ころ、山地に産し、昼間チョウのようにとぶ。

クロスジカギバ

5、6月~7、8月でる。幼虫は、ガマスミ、サシゴジュなどの葉をたべる。

フタツメカギバ(ヒトツメカギバ)

6、7月にでる。幼虫は、ミズキの葉をまいてくうすまでに角がえつある。

イカリモンガ

山に多く、昼間で、チョウのようによくとぶ。

セミヤドリガ

ヒグラシなど、うす暗いところにすみセミについている。幼虫は、からだかぶろをだして、セミのかぶたにしかりとしがみついていく。

ハクガ

オオムギのほにあなをあけてしまう害虫で、どごにも多い。

ヤマムユガのなかま

ヤマムユガのなかまは、大形の種類で、幼虫は、じょうぶなまゆをつくる。ひげは羽のようで、オスののはとてえだが長い。

ヤマムユ

幼虫は、クヌギ、フリ、カシワなどの葉をた

べ、8月ごろががでる。まゆはみどりいろだが、後にはうすいきみどり色になる。糸をとって、せままゆおりにする。

ウスダヒが

エカ虫は、サフラ、クヌギ、モミジなどの葉をたべる。まゆをとくにヤマカマスという。オスは、小形で、こ、か、しよく、ひげは羽がた。親虫のであるのは、11月ごろである。

クスサン

エカ虫(フリケムシ・シラガタロウ)は、クヌギ、フリ、フルミ、サルスベリ、イチョウトチノキなどで、たくさんの植物の葉をたべる。まゆをスカシタワラといい、この糸は、人形のかみの毛などにつかう。色彩に変化がある。親虫は9月ごろでる。

ヒメヤママユ

エカ虫は(フリケムシ)ににるが、毛は白くなく(緑色)は、サフラ、クヌギ、ナシなどの葉をたべる。まゆは、クスサンににて小形、成虫は9月ごろでる。

シンジュサン

エカ虫は、シンジュ、キハダ、クヌギなどの葉をたべる。まゆは、織物の原料になる。インドで糸をとるエリサン(ヒマサン)と同じ種で、少しちがうだけである。

オオミスアオ

エカ虫は、サフラ、ナシなどの葉をたべ、5月と8月の2回にわたり親虫がでる。

イボタガ

幼虫は、イボタ、ネズミモチなどの葉

をたべ、これは、イボタノムシといって、黒やきにして薬にする。親虫は4月ごろでる。

ヤガのなかま

エカ虫の多くは、はだか虫(しかし、まばらにみじかい毛がある)で、中には多少毛のこいものもある。種類が多く、夜間とび。がの前はねは木のみきの皮ににているが、後はねは美しいものが多い。

ヨトウガ

キャベツ、ハクサイなど、アブラナ科の野菜をくいる。幼虫(ヨトウムシ)が活動するのは夜で、昼間は土や葉の間にかくれている。

ムクゲコノハ

成虫は、木のしるをすい、モミ、ナシなどのじゅくした葉にも集ま、ている。

トモエガ

エカ虫は、ネムの葉をたべる。親虫のはねにともえ形のもんがある。

アケビコノハ

エカ虫は、アケビ、4での葉を食べる。成虫の前はねは枯れ葉によくにている。このがは、果物にあなをちけてしるをすう害をする。

コシロシタバ

幼虫は、クヌギにつく

キシタバ

よ、9月ごろでる。後はねのきいろい毛

よう は、とぶときめた"つ

ゴマケンモン

6.7月ごろでる。前ばねは、木の皮によく
にている。

カブラヤカ

幼虫は葉類をくいあさす。

フクラスズメ

幼虫は、カラムシ、ラミーなどをたべる。年
1回7月ごろで、親虫で冬をこす。

シャフトリがのなかま

シャフトリがの幼虫は、シャフトリムシとわか
れ、小枝によくにているので、まがねでどきん
をかけ、落してわるといいうので、ドビンワリとい
う地方もある。

クワエダ"シャフ

クワの害虫で、6~9月にでる。

コウマダラエダ"シャフ

マサキの害虫、5.6月~8.10月の2回で
る。がは、はねをひいてとま、ていることが
多い。

トビ"モンオオエダ"シャフ

幼虫は、クワ、クヌギ、サクラなどの害
虫で、4.5月ごろでる。

トンボエダ"シャフ

ウメ、リンド、ナシなどの害虫、6.7月に
でる。はねが細く、はじに幼虫と同じよ
うなもんがある

ウメエダ"シャフ

幼虫は、ウメ、ボケなどを害する。6.7月
にでる。はねの白紋はきれている。

ヒョウモンエダ"シャフ

山地にみつきり、アセビの害虫である。

ホシシャフ

幼虫は、イボタ、ネズミモチの害虫、がは、
6月ごろで、昼間とぶ。

冬でるが

フユシャフのなかまは、11月ごろの晩
秋または2.3月の早春にでる。メスは、は
ねの発達しないものが多い。ウスバフユシ
ャフは、サクラ、または、シロフユエダ"シャフ
は、コナラなどを害する。

ヒトリがのなかま

ヒトリがのなかまは、よく燈火に集ま
てくる。この性質を利用して、夜間採集をし
たり、ゆうがどうをしかけて、害虫をつかまえる。

サラサヒトリ (ヒトリモドキが科)

クヌギ、コナラなどの害虫で、幼虫は、これ
らの木のみにふくがたのすをつく、てすむ。
がは、音をたすので有名。

ヒトリが

幼虫は、クワなどを害し、ま、黒い毛が生え
ているので、クマケムシとよばれる。がは、9月
ごろでる。

アメリカシロヒトリ

近年東京で発見されたもので、街路樹

のスズカケノキに大害をあたえた。5、6、7
月にかがでる。

シロヒトリ

8月に多い。じゅんはくで、はらわしくおざや
かな赤色がある。

スジモントヒトリ

5〜8月にかけてでる。

クワゴマダラヒトリ

クワのす虫といわれる害虫で、オスズスで
大まきやもようがう。がは、8月にでる。

マエアカヒトリ

がは6月にでる。

コケガ

コケガの幼虫は、みなコケ類、あるいは
地衣類をくも虫で、中にはどくげ
をもっていて、ひふにささるとかゆくな
る種類もある。

メイガのなかま

ニカメイガ

幼虫は、イネの大害虫で、葉さやおよ
くきの中にくい入る。この害を防ぐために、近
年ゆうがとうやくきのぬきとりにかあつて、ハラ
チオンを使うようになったが、この薬はもう
どくなので、使用に注意がける。

サンカメイガ

年3回成虫がでる。西日本の温暖な
地方に多い。セハリイネの大害虫。

モモノメイガ クワノメイガ

それぞれモモ、クワの新しい枝先
を害するので、成長をこまらせてしまう。

カノコガ

カノコガ

黒いはらのみなに、2本のきいろいよこの
帯がある。

キハダカノコ

はら全体がきいろで、各節ごとに黒い横
線がある。昼間とぶ。

コダラガ

ベニモンコダラ

クワころ山地に多い。

ホタルガ

ヒサカキの害虫。後ばねはいすように
黒い。

シロシタホタルガ

サワフタギの害虫。後ばねに白り線が
ある。

スカシハガ

フドウスカシハ

幼虫(フクロムシ)は、フドウのくきの
中にはいつている。つりのえさにつかわれる。
がは、昼間とぶ。後ばねは、すきとあ
つていてハチのようである。

研究のために使ったもの

こんちゅうのずかん

学習百科だいてん

お世話になった人

いません

研究してわかったこと
感想

もっとまだ"まだ"くわしくしなくては
みたい。

こんどまたするときはもっとくわしく
しなくてはみよう。

反省

研究をしてみてもっとくわじくかんさつし、
くわしくしなくてはみようと思いました。